

国際ロータリー第 2500 地区第 6 分区

帯広東ロータリークラブ会報



ROTARY
SERVING
HUMANITY

2016-2017 年度
帯広東ロータリークラブ

会 長 高 田 進
幹 事 石 川 博 機
メディア委員長 上 野 敏 郎

「**活** : かつ」

第1561回例会

平成29年4月4日(火) 於 ホテル日航ノースランド帯広

■創 立 : 1984年6月15日 ■認証 : 1984年6月18日 ■例会 : 毎週火曜日 12:30~13:30

■事務局 : 帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F Tel.0155-25-7347 ■会場 : ホテル日航ノースランド帯広

S. Mori



2016-2017 年度 国際ロータリーテーマ

【人類に奉仕するロータリー】

2016-2017 年度国際ロータリー会長

ジョンF・ジャーム

ガバナーテーマ

【ロータリーの明日の為に、積極的に行動しよう】

国際ロータリー第 2500 地区 ガバナー

駒 形 曙 美

月間テーマ

【母 子 の 健 康 月 間】

◎起 立 加藤武志 副SAA
◎友情の握手 加藤武志 副SAA
◎点 鐘 高 田 進 会 長
◎開 会 宣 言 加藤武志 副SAA
◎国 歌 斉 唱 加藤武志 副SAA

ロータリーソング 「4つのテスト」

◎ゲスト紹介 高 田 進 会 長
WEWとかち 共同代表 若 菜 順 様
共同代表 渡 辺 久 恵 様

◎ビジター紹介 高 田 進 会 長

4月結婚記念日を迎える会員 古川直也 親睦活動委員長

泉 吉太郎 会員 昭和37年 4 月 7 日
鎌田 勉 会員 昭和42年 4 月 7 日
加藤 昭治 会員 昭和43年 4 月14日
内山 智洋 会員 昭和46年 4 月16日
加藤 雄樹 会員 昭和53年 4 月 1 日
益子 裕之 会員 昭和58年 4 月21日
越浦 豊 会員 平成23年 4 月 5 日

4月誕生日を迎える会員 古川直也 親睦活動委員長

佐藤 堅一 会員 昭和18年 4 月 1 日
馬淵 輝昭 会員 昭和18年 4 月26日
上野 敏郎 会員 昭和22年 4 月12日
深澤佳世子 会員 昭和23年 4 月 1 日
橋本 純 会員 昭和39年 4 月16日
及川 武一 会員 昭和44年 4 月 2 日

◎バースデーソング

◎乾 杯

◎会 食

親睦活動委員会

親睦活動委員会

会長挨拶

高 田 進 会 長



今日は「子ども食堂」ということで、先日テレビでこの話の番組があり思い出しました。日本全国でこういった話があって興味深く聞いていました。内容としては、背景にあるのは貧困、家庭問題がありその結果それを見た人達が動き出したということらしいです。小学校で給食だけしかとってないとか、後は家に帰って冷蔵庫の中のもの食べるのが精一杯で、両親も共稼ぎとか母子家庭とかいろんな環境があり、そういう人達が増えている、いわゆる格差が広がっているのが一番大きいのかなと感じました。我々の記憶では昔はみんなが貧乏だったので、みんな貧乏だと格差がないので貧乏でなくなりますけどね。今は見た目は貧乏かどうかはわからない、貧困でも携帯・車・パソコンは必要だしインフラにはお金がかかり、金銭的な余裕がなくなるということです。便利になって考えさせられるところです。このようなことで今いろんな人達が立ち上がり、大変だということです。今日はそのような話だと思いますので聞かせていただきたいと思います。

前回の例会後に寒河江さくらんぼロータリークラブとの話を進めようと理事会で決定しました。先方の会長にも連絡をとり、よろしくお願ひしますと話しました。先方からは年度内に一度お伺いしたいとのことで早い段階で顔あわせのご挨拶をしたいとの意向でした。今後の進め方についてもお互い無理のないように進めていければと思っております。その都度皆さんにもご報告しますのでよろしくお願ひします。

会務報告

石川博機 幹事

◎帯広北・帯広東・音更RC、合同夜間例会のご案内
一十勝ロータリー奨学会支給式一

日時 : 平成29年 4 月26日 (水) 午後 6 時30分

場所 : ホテル日航ノースランド帯広

※尚、帯広東RC、4月25日(火)の繰り下げ例会と致します。

【ゲスト卓話】

テーマ：【WEWとかちのボランティア活動】
【おびひろの子ども食堂運営】

WEWとかち 共同代表 若菜 順 様
共同代表 渡辺久恵 様



渡辺久恵

改めましてこんにちは。本日はこのような場にお招きいただきましてありがとうございます。WEWとかち渡辺と申しますどうぞよろしくお願いいたします。同じくWEWとかちの若菜ですよろしくお願いいたします。

本日は帯広子ども食堂の取り組みということでお話をさせていただきたいと思います。それと私達のどんな活動をしているか皆さんに知っていただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

私たち「WEWとかち」という団体名で活動をしておりますけれども、子ども達と若者を応援する市民団体でボランティア団体です。

私と若菜が共同代表として中心となってやっておりますけど私も若菜もフルタイムで仕事をもっていますので、その間をぬっていろいろな活動をしています。

不登校を語る親の会だとか若者の居場所作り、それと毎週水曜日に学習支援ということで学習支援の居場所「歩歩(ばば)」というのをやっております。それとフリースクール&フリースペース「くるみの森」これは小学校を退職された学校の先生が、昼間不登校の子ども達を受け入れてそこで勉強を教えたり、さまざまな活動をやっております。帯広子ども食堂これは今年の4月からスタートしてまる1年になります。ペアレント・トレーニングという、親が子育ての時にどういうふうにしていくと、子育てが楽しくなるかという活動もしております。

それともう一つ制服リレー委員会というものを行っていたのですが、今ご紹介いただいたときに子どもの貧困ということもあったのですが、もしかしたら進学するときにとてもお金がかかるので、大変な思いをしている家庭があるかもしれないということで、いらぬ制服をこれから使う人達に譲る取り組みというのを、今年度

初めて行いました。

そういう方達に2人でも3人でもお渡しできたらいいなと思っていたのですが、なんとですね十勝の人は大変優しくて120枚くらい制服が集まりました。それで90人近い人に制服をお渡しすることができました。その内の何人かは新聞を見て「本当に困ってるので絶対欲しいです」という電話も何件もあり、渡せたことは本当に良かったと思います。

それと映画祭もやっているのですが、不登校に関わる去年は不登校を題材にした映画会をやりまして監督をお呼びして、みんなでいろんな話をするというようなイベントもいくつかやっております。

さて帯広子ども食堂なんですけど、昨年やろうというふうに考えたのですが、まず動機はとある子ども達の現状を知ったことからです。私も若菜も若者や子どもに関わる本業の仕事をしてまして、帯広駅の中にジョブカフェジョブサロン帯広というのがありまして、北海道の委託事業で就職支援の仕事をしております。そこでいろんな壁にぶつかる若者だとか、これから就職しようとする方達の相談にのったりなどということをしています。私は十年前に川崎からリターンしてきて働き始めたのですが、自分が別な業界で働いていたときは若者の現状というものを正直知らなかったです。

その頃ニュースではニートだとかフリーターだとかニュースでバンバン流れてましたけれども、その時の自分の気持ちとしては正直いうと自己責任だと思ってました。若い人達がニートになる働かないフリーターになる、それが自分で選択したことではないのかなと思っていたのです。

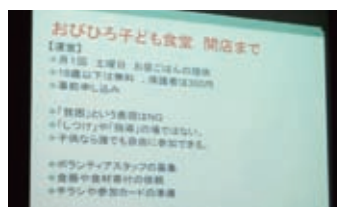
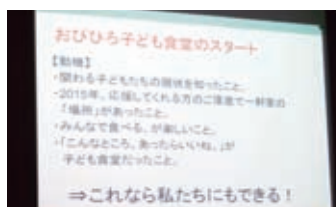
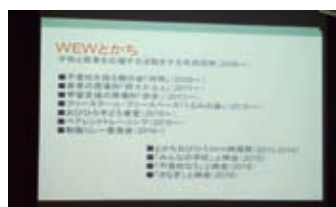
ジョブカフェというところで働いて若者達と関わるということ、それと世の中の雇用状況のいろいろな変化などがあって、働きたいけどなかなか働けない若者、もしくは働くのだけでも業務が覚えられない、コミュニケーションが取りにくい、いろんな若者がいて今は本当に大変なことなのだと知りました。

若菜 順

私は本業がスクールカウンセラーとか教育相談員をしています。多分小学校の先生方は私よりもずっとご存じだと思うのですが、非常に子ども達の生活環境が危うい、明日死ぬんじゃないかぐらいの思いをしているお子さんがクラスに1人2人と結構います。

そういう子はクラスの中にもそんなに目立ちません。目立ちませんというのは貧乏だとか困っている子だとわからない、それどころかそういう子にかぎって筆箱の中に一杯ペンが入っていたり、ノートをしょっちゅう変えたりというような事があります。

そういった現状を知ってはいたのですが、それを自分で何とかするというのもできなく、誰かに話すとう



ことも個人情報なのでできなく、どうにかできたらいいなとずっと思っていました。

渡辺久恵

その中で私たちWEWとかちでいろいろな活動をしていたのですが、最初はレンタルというか十勝プラザとかいろんな所にお金を払って借りていたのですが、2015年に私たちの活動を知った方が一軒家を提供してくれたのです。使っていないのでは是非そういう活動に使って下さいと家賃はいりませんということで、光熱費はお支払いをしておりますけど、そういう一軒家を借りてまづ場所をゲットしたのです。

今私や若菜が関わる子ども達の現状について、日々あるときにこんな子がいるよね、こういう子どうにかどうしたらいいだろうね、会った時に食べるということは楽しいよねという事、こんなとこあったらいいねというのが、その頃は子ども食堂は東京の方から発信されていて、ニュース等で私たちは知っていましたが、それでやっぱり子ども食堂だったらそういう子達につながって行けるのではないかという発想から、これなら私たちにも出来るねという話で……これなら私たちにも出来るというのは、日々食事を作るわけですから料理もするのだし子ども達に会うのだし出来るのではないかなと、みんなで一緒にご飯食べて楽しいそれがいいよね！ということでスタートしました。

現在は月1回第3土曜日お昼ご飯の時間で提供しています。本当は夜やったほうが夜ご飯を1人で食べる子達がこれならいいと思うのですが、私たちがフルタイムで働いていてその辺のマンパワーが足りないということで、まずは自分たちのちゃんと出来ることから始めようということで土曜日に設定しました。18歳以下は無料にしました、この辺はお金を取るか取らないかということで悩みましたが、まずは無料にして大人からもらったお金でしようという考え方で、保護者は300円ボランティアスタッフのきた大人は全員300円もらうと私たちもちろろん300円払って食べているということで運営をしているのではないかとということでスタートしました。

貧困という表現だとか食事のしつけをするだとか指導するとか、そういう場ではないものにしようと、大人

がいただきますといえは食べるだろうし片付け始めたら子ども達はやるよっていうのです、そういう自由な楽しい場所にしようということ、とにかく楽しい場所を作りたいねということでやっております。

勝毎さんにも大きく取り上げていただいてとても反響が大きかったです。今まで私たちいろいろな活動を不登校のこととか若者応援でも新聞でも取り上げ

ていただいたのですが、子ども食堂の反響は凄かったです。世の中の大人は子ども達が食べられないという事に対しては、本当にこれは何かしたいなという気持ちが動くものなんだと実感しました。

本当に世の中は善意で出来てるなと思ったくらい、沢山の提供をいただいてありがたいなと思ってます。

去年の4月ですけど第1回目のオープンということで、どれくらいの人に来てくれるのかなと思ったのですが、ここで勉強をするという子どもがいたりとか、ボランティアスタッフも手伝いたいという人が沢山きてくれました。1回目は本当に沢山の方が見学の方も含めて40人くらい狭い部屋に入って大変でした。

第1回目をスタートしたら運営も進むようになりました。1回目はカレーライスを作ってみみんなで食べました、美味しかったですね。本当に提供いただいた食材だとかそういうものを使ってワイワイガヤガヤと食べています。今もこういう雰囲気食べております。

北海道新聞にも取り上げていただいて、本当にいろんな方から頑張ってくださいとか、何かあったらお手伝いしますという声をいただいて支えられながら続けているという現状です。

今、子ども食堂開店から1年たちましたけど、大体子ども達の参加は毎回8人から多いときで20人ボランティアスタッフの人が7~8人いつも来てくれています。皆さん主婦だったり若者だったりいろんな方がいて手早くやってくれます。

これは子ども食堂をやったからの発見なんですけど、先程お話ししましたが新聞に出たときに、本当に何人もの方から何か差し上げたい何か出来ることはないかボランティアに行きたいということで、大人の共感がとても多かったこと、食事を作るということはコミュニティが出来ることなんだと改めて思いました。

ボランティアスタッフの人ってみんな今まで知らない人達が集まっているのですが、同じ物を一緒に作るということはとても楽しいコミュニティが出来るものなので、子どもだけでなく大人の方々も大変楽しい雰囲気が出来ているということです。来れる人來れない人強制は全くなく大人の人も来てもらってます。

それと改めてですけど、一緒に作って食べる楽しさご飯って大事なんだということが発見ですね。それと子ども達、私なんかは楽しい場所作れば、子どもは1回2回来たら慣れて楽しくワイワイやってくれるじゃないかと思うのですが、子ども達は慣れるのに時間がかかって4~6回来てようやく、私もお手伝いしたいとかちょっとふざけたりしたりとかがおきてくる。続けることが大事だなと思っています。

今後の私たちの課題です。いろんなことをやっているのですが、課題は盛りだくさんですけどまずは知ってもらうための広報ですね、前から知っていてなかなか行かなかったけどやっと来たという方もいれば全然知らなかったという方もいて、どういうふうにこれから広げていったらいいのか？今後の継続するための資金これをどういうふうにしていこうか？今のところは大人300円で何とか回っていて食材とかは寄付していただいた食材なんか



で何とかやっています。ボランティアの方の継続ですね、私たちはメインでやっておりますが、ボランティアって中々ずーっと続けるのは難しいことではないかと思うので、そういう方々が楽しく継続出来るような取り組みも必要かなと思っています。

それと子ども食堂は都市部では沢山出来てます。札幌なんかたぶん4～5カ所あると思うのですが、都市部と違って十勝は距離があって冬場は子ども達が来にくいのです。夏は自転車で来るのですが、そういう違いも感じています。

これから子ども食堂なのですが、これからも安心できる食べられる、きちんと食べられる場所を作っていきたいなと思っています。それと大人と子どものナナメの関係がある場所というのを作って行きたいと思っています。

ずーっと子ども食堂に来てくれてる子どもがいて、4月で丸1年になるときに1周年というボードを作ってきてくれて感激しました。「これ作ってきたよ～」と持ってきてくれて本当にうれしいなと思いました。

若菜 順

私の方からナナメの関係ということなのですが、ピンクのチラシにあるようにいろんな活動をしているのですが一番大事にしているのはナナメの関係ということです。ナナメで何かというと、子どもを皆さん愛情をもって育てていると思いますけど愛情の反対は無関心です、良く言われることだと思いますけど。家の中で本当は愛情をもって育ててくれるはずの親が無関心な家庭も少なからずあります、というかだんだん多くなってきたような気がします。

親だけでなく学校はどうなのか？学校は関心は示すと思いますけど、そこは先生との上下の関係が有る場所であり学校としての機能の上なのではないかと、点数とか学力とか体力とかそういった目に見える数字のものに価値がある場所であります。そこでナナメの関係をやるというのは難しいせめて保健の先生くらいですかね。子どもは地域で育てていくということでも、良いも悪いもいろんな種類の大人が子どもに関わるということが、凄く大事だなとその場合はナナメの関係になれる、子どもにとってはどうでもいい関係ですよね、この人から愛情をもらわなくてもお母さんがいるからいいし他の人がいるからいい、でも母親からならこの人からは愛情をもらわなければならないと思えば、いろんな我慢とか

もするし子どもは子どもとしてチョットいられない状況もあるかと思っています。

私たちは子どもとナナメの関係を作りながら、いろんな価値観を受け取ってもらって子どもの育ちを応援していきたいなと思っています。

渡辺久恵

それにはとにかく続ける事かなというふうに思っています。スタートして1年だとか2年でやめてしまわないで、きちっとこれからとにかく続けていくということがいろんな子ども達に届いていくのではないかと考えています。

「応援よろしくお願いしますということで」さっきのボードを作ってくれた子どもが、本当に子ども食堂を毎回楽しみにしてくれて、いつの間にかこういう看板も作ってくれるようになったのですね。本当にこういう所がうれしいなと思うし、こういうのを作ると周りもさっき言いつた良い大人も悪い大人も凄いねーというふうに子ども達もワー凄いねというそういうような、場所があるというのが非常にいいなと思っています。

最後にもし皆さんこういったようなことにご関心があったら「子どもと貧困という」朝日新聞社で去年の10月に出した本があります。私たち朝日新聞の方からチョット電話取材を受けたので、この本を送っていただいたのですが読んで大変です「家庭の中でご飯が食べられない」「父親の暴力」「学費を自分のアルバイトで稼ぐ」そういったようないろいろな事例がのってますけど……

今の世の中ってこういうふうに見えない部分ではありますけど、こういうことが起きているんだなと実感していただければと思います。

それと最後に宣伝です。最初の方に私たち映画の上映会をやっているといったのですが、今年は「さとにきたええやん」という映画の上映会を来月5月14日の曜日に1回目が午前10時30分から2回目が午後1時から開催します。これを撮った重江良樹監督もこの日にいらっしゃって3時からトークセッションをやりましますので皆さん興味があったら是非来て下さいよろしくお願いします。

これで私たちの話は終了したいと思います。ご清聴ありがとうございました。



◎閉会宣言 加藤 雄樹 S A A
◎点 鐘 高田 進 会 長

次週プログラム 米山記念奨学委員会

4月11日(火) 「ゲスト卓話」
つがやす歯科院長
梶安秀樹様(帯広北RC)
【苦手な歯医者者の利用法教えます!!】

